



平成21年度「さわやか」活動報告

項目	20年度	21年度
登録ボランティア数	69名	64名
登録車両数	67台	63台
登録利用者数	43名	45名
送迎回数	2801回	2688回

(八幡・小倉事業所合算 平成22年3月31日現在)

声を出していかなければならない

第七回「さわやか」定期総会開催

五月三十日(日)午前十一時から北九州市総合保健福祉センター(小倉北区)六階会議室で、特定非営利活動法人通院介護センター「さわやか」第七回定期総会が開催されました。

岡副理事長が開会宣言を行い、資格審査委員に加峯理事と貞谷事務局長が選任されました。

続いて山田理事長が「行政

の福祉政策も厳しくなっています。この様な時代だからこそ障害者団体として声を出していかなければならない。」と挨拶しました。

続いて、議長には、王子病院腎友会幹事の岩崎真一正会員が選任されました。また、議事録署名人に山田理事長と梶原常務理事が選任

平成22年度

「さわやか」活動方針

I・全腎協・福腎協・北九州ブロックと協働して運動します。
 II・北九州市福祉有償運送運営協議会の協議を重視し、その方針に従って行動します。
 III・九州三県の通院送迎事業所との連携及び情報交換を行います。
 IV・北九州市障害福祉団体連絡協議会(障団連)の会員として他の障害者団体との対市懇談会や、啓発及び交流や学習会等に積極的に参加し、情報交換を行います。
 V・東京ハンディキャプの会員として、全国の移送サービス等の状況や情報を得、

①「さわやか」新聞を毎月発行します。
 ②「さわやか」主催のボランティア研修交流会、及び学習会を開催します。
 ③送迎ボランティア及び、利用者を募集します。
 ④三県合同研修会(長崎県主催)に参加します。
 ⑤福祉有償運送検討会や意見交換会に参加します。

されました。資格審査委員より、午前十一時現在、総正会員二十七名、出席者数二十五名、(うち書面表決者七名)、欠席者数二名で、定款に基づきこの総会は成立する旨、報告がありました。その後審議に入り、高原理事より情勢報告があり、満場一致で採択されました。次に貞谷事務局長より、平成二十一年度活動報告があり、満場一致で採択されました。梶原常務理事より平成二

十一年度収支決算報告があり、満場一致で了承され、小田監事より会計監査報告がありました。その後、山田理事長より、平成二十一年度活動方針(案)が提案され承認されました。次に梶原常務理事より平成二十二年事業計画及び収支予算(案)の提案があり、満場一致で承認されました。また山田理事長より定款の一部変更(案)を提案され、全会一致で採決されました。続いて、岩崎議長より、任期満了につき、役員改正(案)の提案があり、満場一致で承認されました。役員は全員重



任されました。その他に腎友会や難病連の会員以外の利用者の年会費徴収について(案)の提案があり、承認されました。以上で、総会の議案全ての審議を終了したので、岩崎議長は解任の挨拶を行い、岡副理事長が閉会を宣し、午前十一時五十分閉会しました。

★新役員紹介

- 理事長 山田 浩美 (門司港腎クリニック)
- 副理事長 梶原 待子 (門司港腎クリニック)
- 副理事長 岡 俊一 (かわいクリニック)
- 理事 加峯 東樹 (八幡クリニック)
- 理事 長江 信一 (今村クリニック)
- 理事 高倉 徹也 (戸畑共立病院)
- 理事 若原 清彦 (折尾クリニック)
- 理事 田村 昌弘 (天神クリニック)
- 理事 高原 由美 (今村クリニック)
- 監事 小田 睦美 (難病連)

事務局からのお知らせ

今回の定款変更に伴い、腎友会や難病連の会員以外で送迎も行おうことができるようになりました。会員以外の方と腎友会等への入会されない方に対し、事務手数料として年会費三〇〇〇円を徴収することにになりました。定款変更の認証がおり次第、お知らせします。



(社) 全国腎臓病協議会
宮本 高宏会長

五月二十三日(日)に和歌山県民文化会館にて「二〇一〇年度全腎協大会IN和歌山」が開催され、「さわやか」から四名が参加しました。
大会には、約一一五〇名の方々が参加しました。
初めにNPO法人和歌山県腎友会会長竹内拓氏より、歓迎の挨拶がありました。
続いて、主催者の(社)全国腎臓病協議会宮本高宏会長から、今回のテーマでもある「透析患者の未来を作る為の再スタート」と題して「昨年全腎協も新体制となり、私自身も昨年、全腎協会長に就任させてもらい、初めて全国の会員、家族、関係者に挨拶することができました。また今回の和歌山大会は、二年ぶりの全国大会です。昨年は新型イン



透析患者の未来を作る為の再スタート

二〇一〇年度全腎協大会IN和歌山

フルエンザ国内感染拡大の為、患者の安全第一を考え、全国大会は初めての中止となりました。中止から苦渋の経験、その過程で得た成果を持って今日、この和歌山で再会することができました。」と挨拶がありました。
患者の訴えでは、NPO法人和歌山県腎友会前田敏行氏、他二名の方が思いや考えを話されました。
続いて各界からの来賓挨拶がありました。
NPO法人和歌山県腎友会吉田千鶴子氏により大会決議(案)が読みあげられ、採択

みんなで力を合わせていきたい

北九州市障害福祉団体連絡協議会(障団連)

第13回定期総会に参加

六月十二日(土)午前九時三十分から、ウエルとばた多目的ホールで北九州市障害福祉団体連絡協議会(障団連)第十三回定期総会が行われました。
「さわやか」から四名が、初めに中島事務局次長から

されました。

その後休憩を挟み、記念講演では、和歌山県立医科大学腎臓内科・血液浄化センター重松隆教授から、「腎臓病と骨は兄弟です」と題して、話がありました。
私達生き物は海でできました。大きくまとめると「命は海で誕生」したのです。

海で誕生した生き物は

陸にあがるか?

何が起るのか?

海水は塩水です。周りの塩水を失うと、陸に上がった生き物たちは、体重(重力)がかかって来ることになり、そのままと生命の危機の為にいくつかの臓器が必要になるのです。塩水を失った事で、塩水を溜める為に腎臓がで

ました。腎臓というのは、塩水を溜める臓器、逆にいうと塩水を調節する臓器の為、この機能がなくなると臓器は止まります。
続いて、肺が発達し、重力に対抗する為に、骨が発達します。この三つ臓器、骨・肺・腎臓が兄弟です。
骨と腎臓が一番関係深く、リンやカルシウム、ビタミンDが関係しています。
実は、肺と腎臓も関係していて、腎臓病の患者さんは肺も一緒に悪くなりやすいのです。

非常に日本人はカルシウム不足の状態です。これを骨粗しょう症といいます。
人類は進化の過程で、骨は丈夫でないといけないので、

骨は円筒形でできています。円筒では、上からの力は強く、横からの力には弱いという特徴をもっています。また、骨の中心部には、骨髓がとおっています。骨髓とは、造血の場、即ち赤血球という血液を造る所です。
続いて、薬の歴史、飲み方などの話がありました。
午後からは、シンポジウムと鼎談に分かれて話がありました。

その後、「笑って、笑って、広げよう仲間の輪、創ろう未来！」と題して、演芸ショーがありました。
午後三時三〇分に閉会しました。
来年の全国大会は、愛知県で開催されます。

治市長他二名の方より来賓祝辞がありました。

議長は、NPO法人自立生活センターぶるーむの田中雄平氏が又、議事録署名名人に二名が選任にされました。

事務局の赤嶺氏より、総会員団体数三十八団体、出席団体数二十七団体、書面表決団体九団体、欠席団体二団体で、この総会は成立する事を告げました。

その後、審議に入り、全ての議案が、満場一致をもって

異議なく承認されました。
休憩を挟み、北九州市障害福祉課青本功企画調整係長より、「平成二十二年度障害福祉関係予算」について話がありました。
その後、質疑応答があり、総会は十一時五十分を終了しました。

尚「さわやか」の山田理事長が、監事に選任されました。

